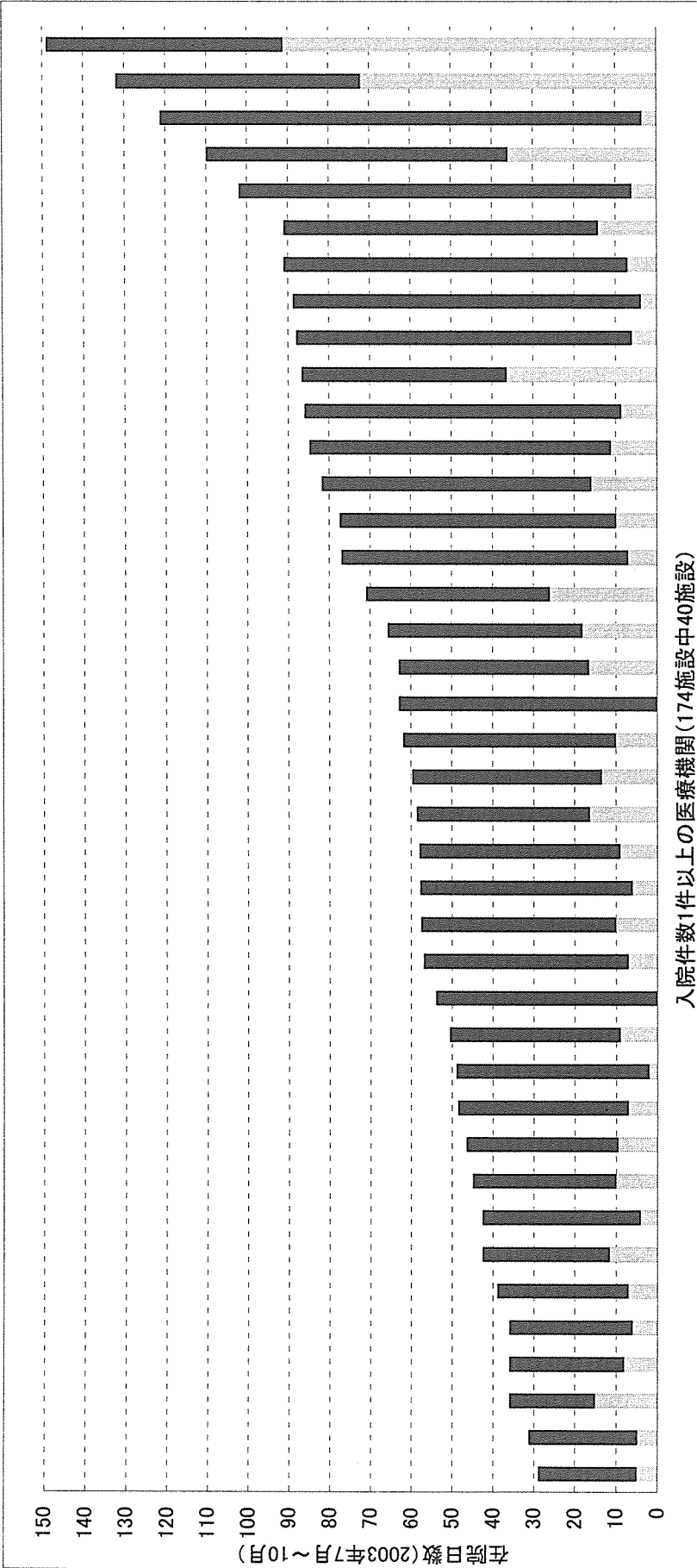


同種腎移植術における平均在院日数(N = 135)

解析対象DPC番号の範囲 110260/ 110270/ 110280

解析対象DPC番号の範囲						110260/ 110270/ 110280							パーセンタイル				
分類名	解析内容					平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
ネフローゼ症候群/急性腎炎症候群・急速進行性腎炎症候群/慢性腎不全 群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	在院日数					68.1	28.0	29.0	149.0	35.8	36.0	48.0	60.8	86.2	102.8	121.8	
	術後在院数					54.2	21.4	21.0	117.8	26.2	29.8	40.8	49.5	68.2	82.2	85.6	
	術前在院数					14.0	17.7	0.0	91.0	1.9	3.7	6.0	9.0	14.3	27.0	38.1	



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、1件以上の施設を解析対象とした。

術前在院日数

術後在院日数

【コメント】

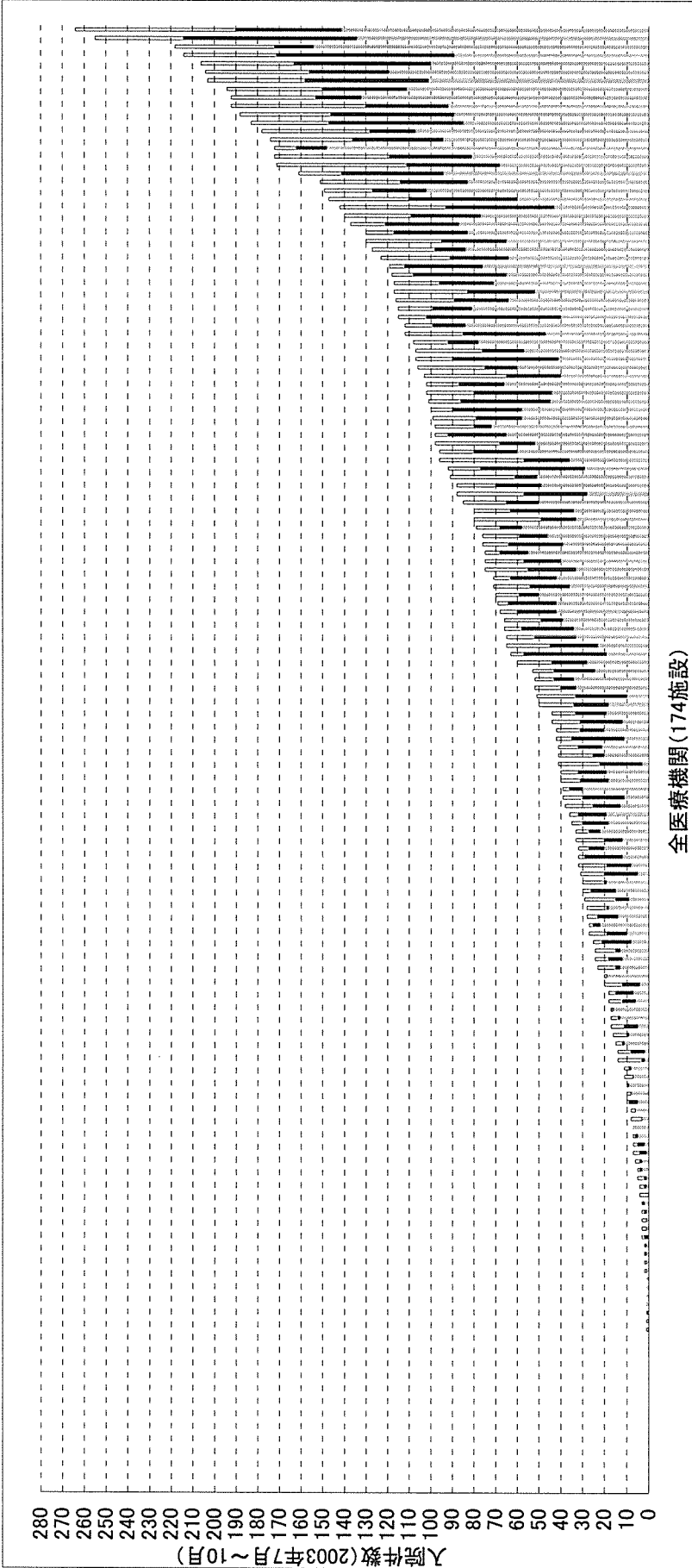
・件数が少ないためにかなりのバラツキが見られた。ただし、最も件数の多い医療機関の平均在院日数は30日程度でありこの施設では腎移植の診療が標準化されていることが示唆される。

MDC12

女性生殖器系疾患及び
産褥期疾患・異常妊娠

卵巣、子宮頸・体部の悪性腫瘍の部位別入院件数

解析対象DPC番号の範囲		120010/ 120020		パーセンタイル									
分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍、子宮頸・体部の悪性腫瘍	子宮体部癌件数	2,393	14	15	0	74	0	0	2	9	18	38	44
	子宮頸部癌件数	2,731	16	17	0	82	0	0	1	12	23	39	49
	卵巣癌件数	5,793	33	36	0	154	0	0	3	19	54	85	101



【図の説明】

：卵巣癌件数[DPCコード：120010かつICD10コード：C56]

：子宮頸部癌件数[DPCコード：120020かつICD10コード：C53]

：子宮体部癌件数[DPCコード：120020かつICD10コード：C54]

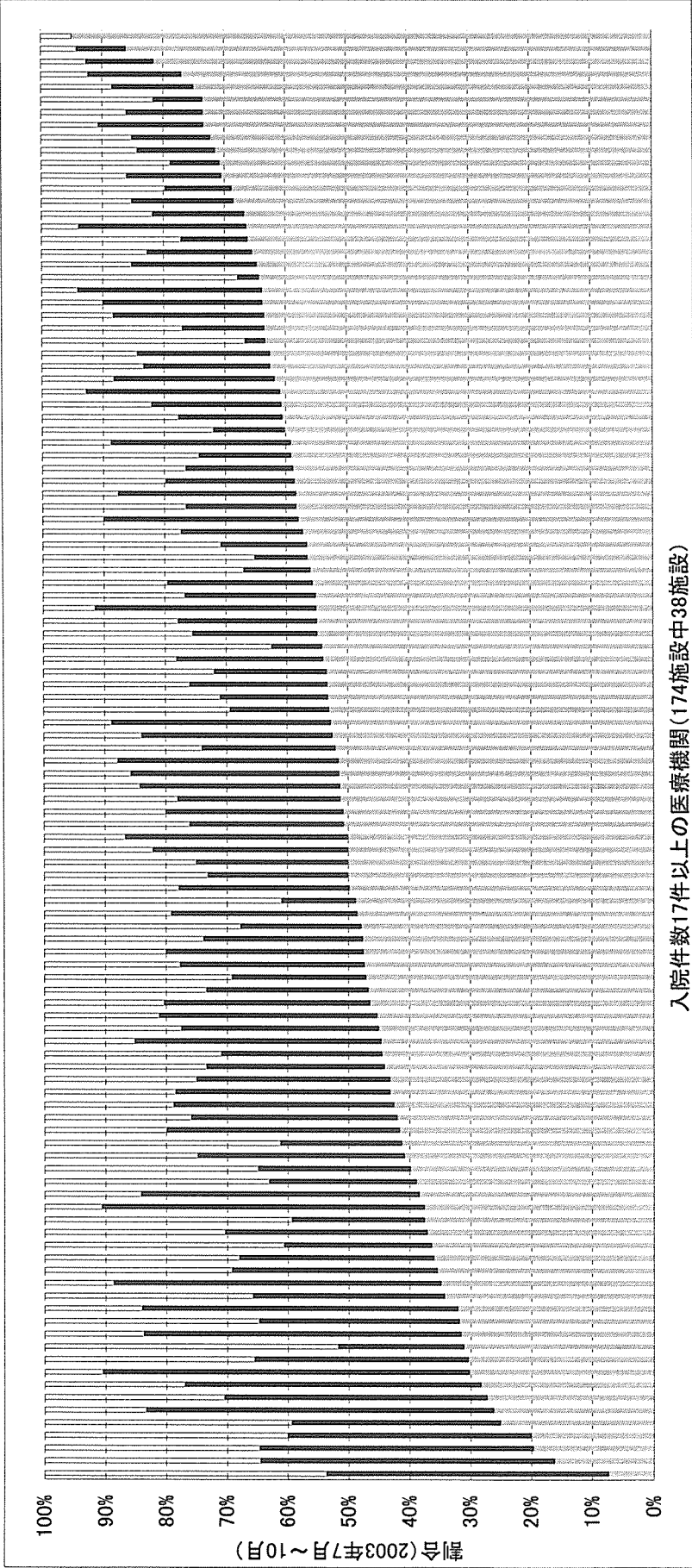
【コメント】

174施設中155施設(89%)において、卵巣癌(DPC:120010)におけるICDコード＝C56)または子宮頸部・体部癌(DPC:120020)の症例が1例以上認められた。卵巣癌は全体の半数(53%)を占め、子宮頸部と子宮体部はほぼ同数であった。

卵巣、子宮頸・体部の悪性腫瘍の部位別入院割合(N = 10,621)

解析対象DPC番号の範囲
 120010/ 120020

解析対象DPC番号の範囲						120010/120020						パーセンタイル					
分類名	解析内容					平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍、子宮頸・体部の悪性腫瘍					22%	10%	5%	48%	8%	10%	15%	22%	29%	35%	39%	
	子宮体部癌割合					26%	12%	0%	60%	8%	11%	17%	25%	34%	42%	50%	
	子宮頸部癌割合					51%	15%	7%	95%	27%	32%	42%	52%	61%	70%	73%	
卵巣癌割合																	



【図の説明】

卵巣癌件数[DPCコード:120010かつICD10コード:C56]
 子宮体部癌件数[DPCコード:120020かつICD10コード:C54]

子宮頸部癌件数[DPCコード:120020かつICD10コード:C53]

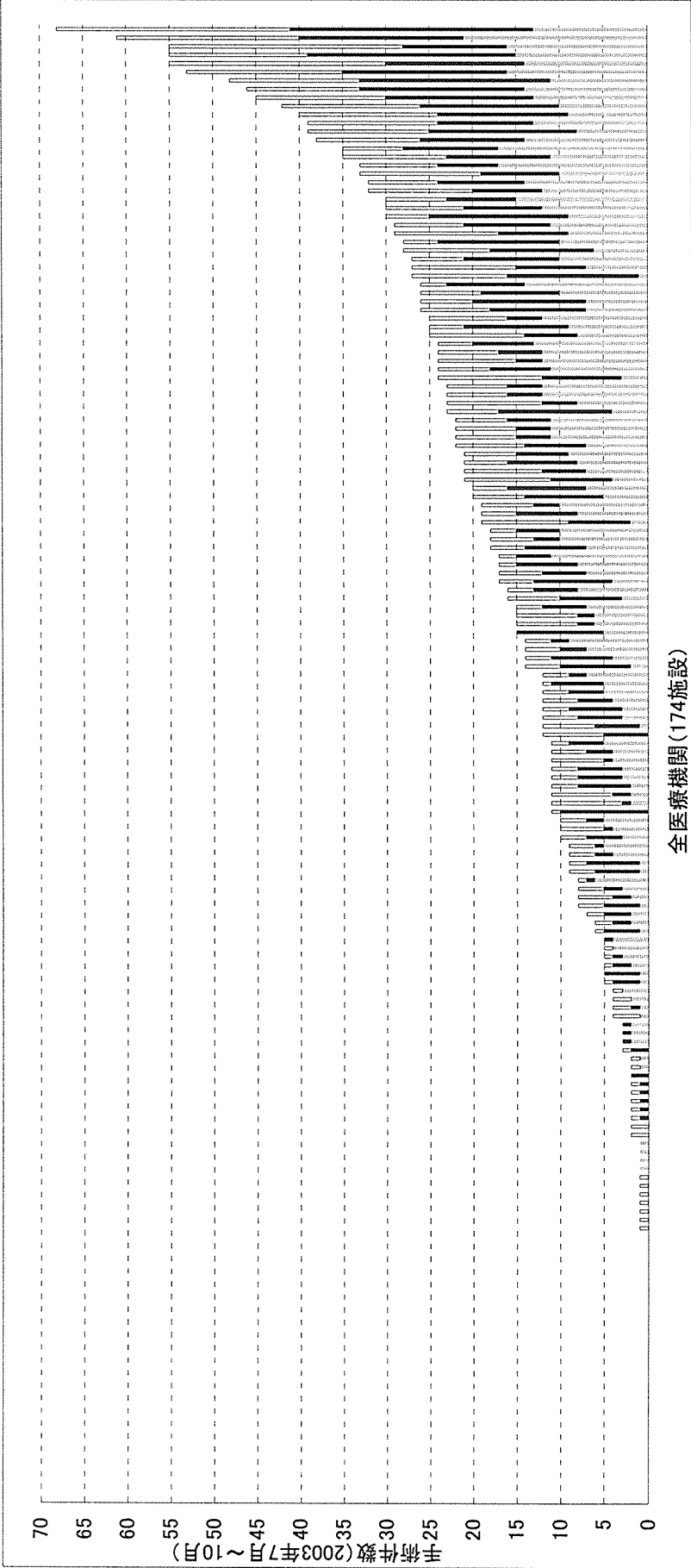
【コメント】

入院件数上位25%以上(17例以上)を有する38施設を解析対象とした。卵巣癌は全体の半数を占め(平均値:51%、中央値:52%)、また施行割合は中央値を中心にほぼ対称的に分布しているものの、大きなバラツキがみられた(最小値:7%、最大値:95%)。子宮頸部癌と子宮体部癌は平均値にして4%程度子宮頸部癌の症例割合が高かった。

卵巣、子宮頸・体部の悪性腫瘍の手術施行件数

解析対象DPC番号の範囲 120010/ 120020

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍、子宮頸・体部の悪性腫瘍	子宮体部癌手術件数	803	5	5	0	27	0	0	1	3	7	12	15
	子宮頸部癌手術件数	844	5	6	0	28	0	0	0	4	7	12	16
	卵巣癌手術件数	853	5	5	0	21	0	0	0	3	9	12	14



【図の説明】



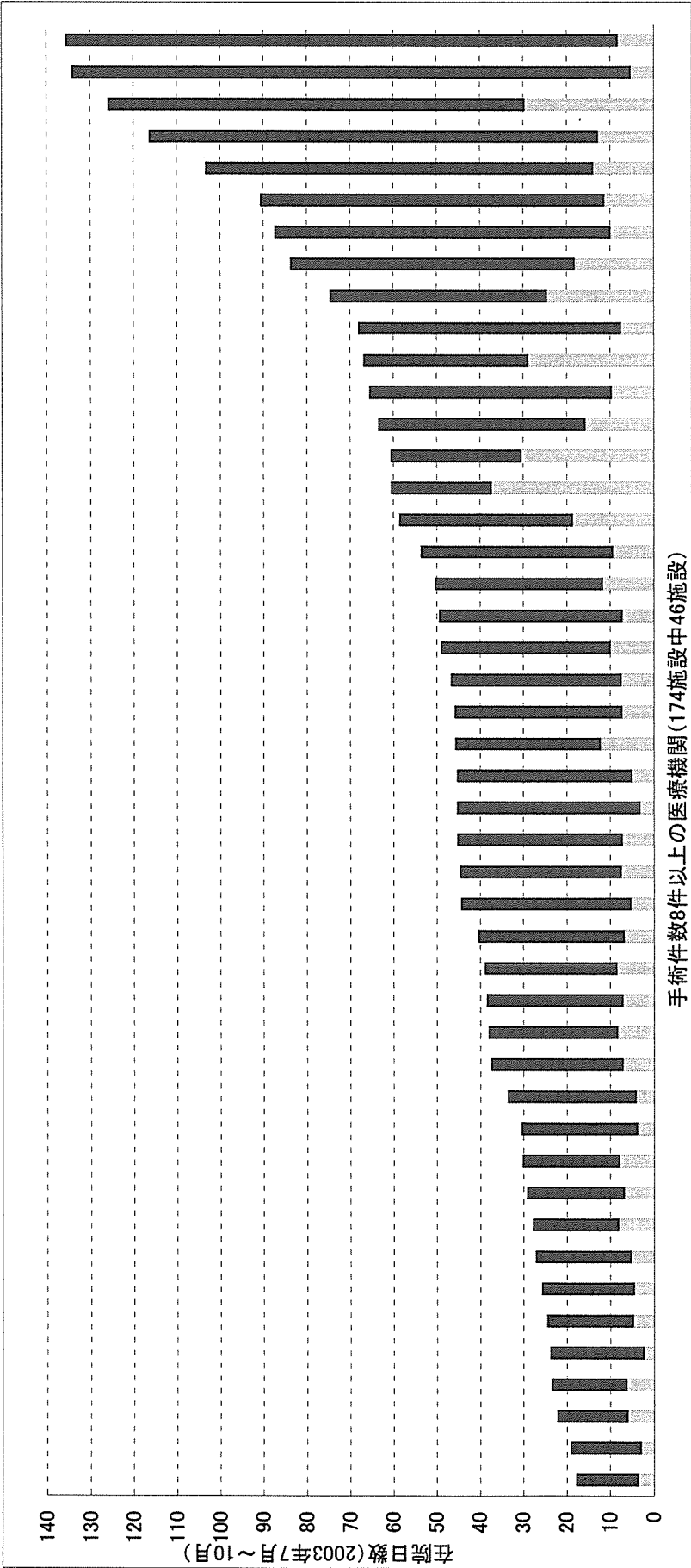
- : 卵巣癌手術件数 [DPCコード: 1200103x01または1200103x02かつICD10コード: C56]
- : 子宮頸部癌手術件数 [DPCコード: 1200203x01または1200203x02または1200203x03かつICD10コード: C53]
- : 子宮体部癌手術件数 [DPCコード: 1200203x01または1200203x02または1200203x03かつICD10コード: C54]

【コメント】

卵巣癌、子宮頸部・体部癌の手術症例が1件以上あった施設は、174施設中142施設(92%)であった。症例全体では卵巣癌が全体の約半数を占めていたが、手術症例に限定すると三者ともほぼ同数であり、その分布もほぼ同様であった(平均値:ともに5件、標準偏差:5〜6)。

卵巣の悪性腫瘍手術症例における平均在院日数(N = 803)

解析対象DPC番号の範囲						1200103x01/ 1200103x02							パーセンタイル				
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95					
卵巣の悪性腫瘍	在院日数	54.2	30.4	17.9	135.6	22.5	24.2	31.3	45.6	65.0	97.1	123.5					
	術後在院日数	43.8	27.9	14.4	128.9	16.6	19.8	24.3	38.2	47.0	84.6	101.9					
	術前在院日数	10.4	7.9	2.2	37.2	3.2	3.9	5.4	7.5	11.5	21.4	29.3					



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(8件以上)の施設を解析対象とした。

ICD-10: C56

術前在院日数

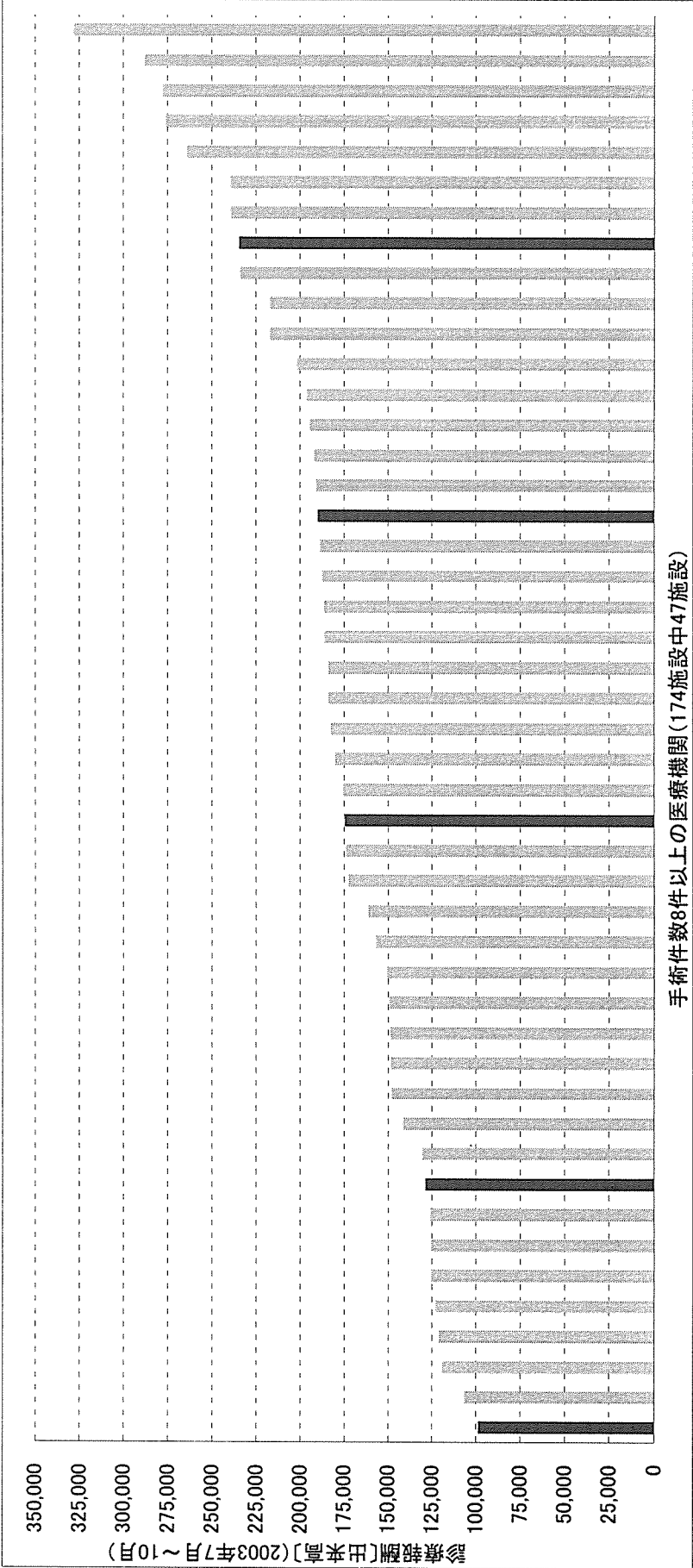
術後在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数8件以上の46施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は7.5日で最小値3.2日、最大値29.3日と施設間で大きな差がみられた。また、術後在院日数は最小値14.4日、最大値128.9日と10倍の差が生じていた。

卵巣の悪性腫瘍手術症例における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値 (N = 806)

解析対象DPC番号の範囲				1200103x01/ 1200103x02										パーセンタイル				
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95						
卵巣の悪性腫瘍	診療報酬〔出来高〕	182,061	51,077	98,717	328,022	119,781	124,236	148,106	182,241	198,668	248,983	276,985						
	特定機能病院(42施設)〔出来高換算総点数〕	184,062	51,131	106,447	328,022	121,228	125,231	148,246	182,893	200,101	261,448	277,302						
	その他の参加病院(5施設)〔出来高制度の総点数〕	165,252	53,007	98,717	234,437	104,719	110,721	128,727	174,512	189,865	216,608	225,522						



【図の説明】

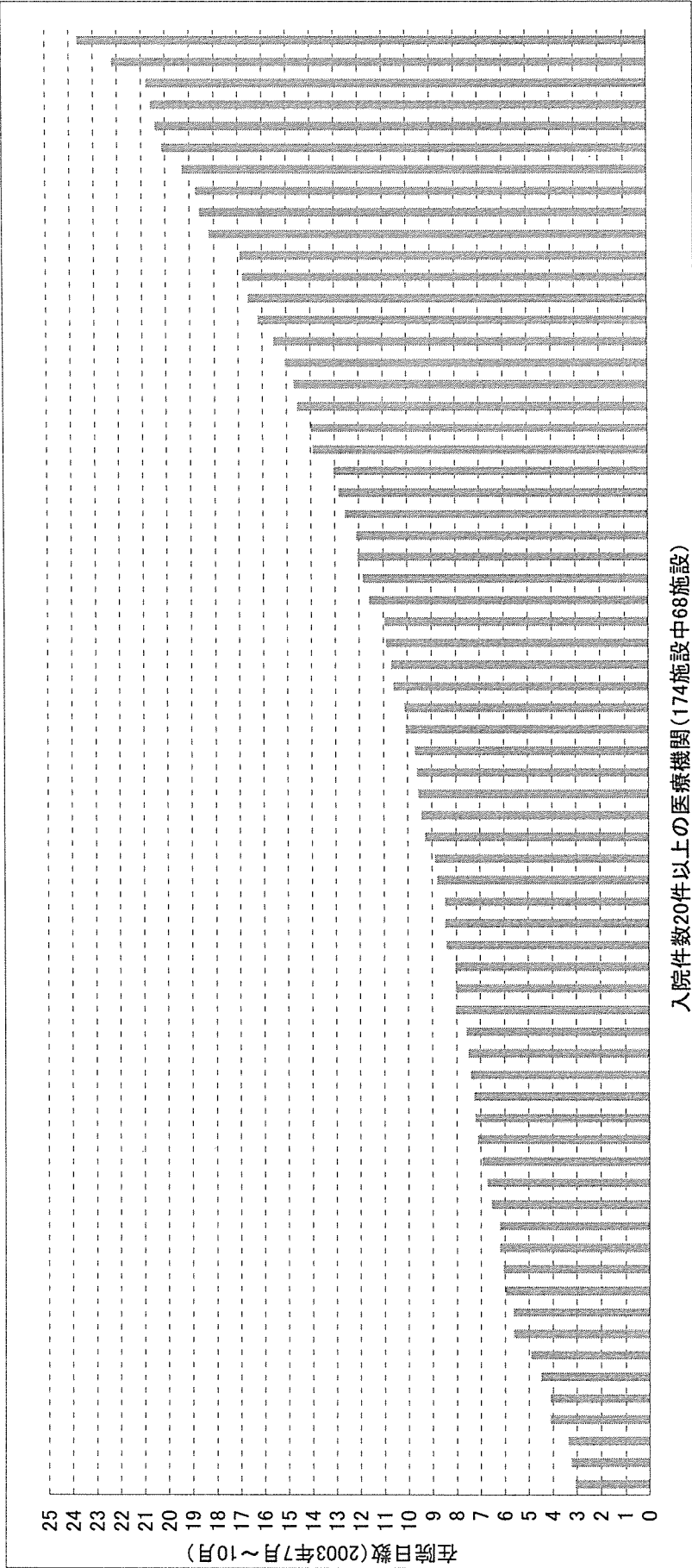
外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(8件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。
[Dark Bar] : 特定機能病院
[Light Bar] : その他の参加病院

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数8件以上の46施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬〔出来高〕は約18万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりもおよそ2万点高額であった。

卵巣の悪性腫瘍手術未症例における平均在院日数(N = 4,136)

解析対象DPC番号の範囲		1200103x99											パーセンタイル				
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95					
卵巣の悪性腫瘍	在院日数	11.0	5.2	3.1	23.6	4.1	5.4	7.2	9.6	14.6	18.9	20.5					



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、20件以上の施設を解析対象とした。

ICD-10:C56

：在院日数

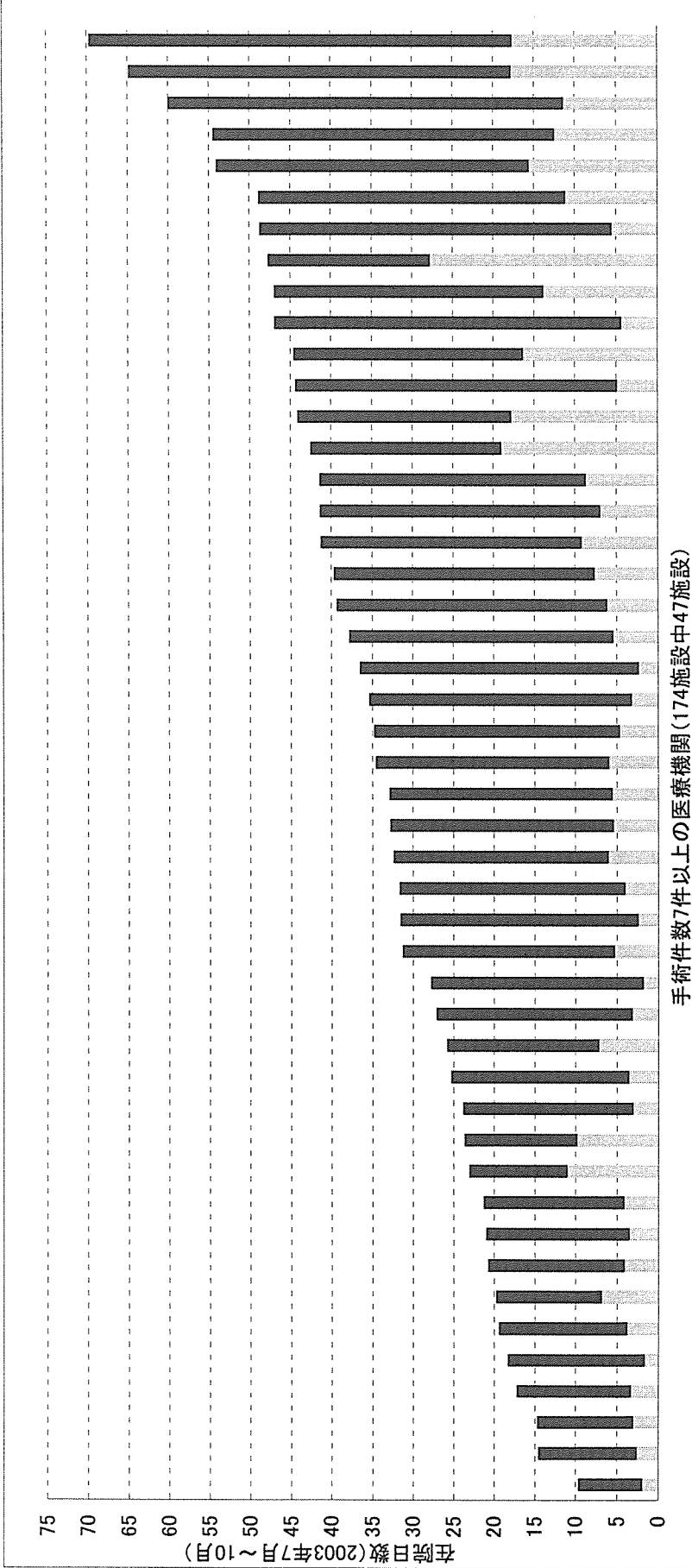
【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、入院件数20件以上の68施設を解析対象とした。卵巣癌においては、手術のない症例が4ヶ月で4,136例あるが、在院日数は平均値11.0日、最小値3.1日、最大値23.6日で分布していた。

子宮頸部の悪性腫瘍手術症例における平均在院日数(N = 790)

解析対象DPC番号の範囲 1200203x01/ 1200203x02/ 1200203x03

分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
		子宮頸部の悪性腫瘍											
		在院日数	35.0	13.7	9.7	69.8	15.5	19.0	23.7	34.6	44.3	51.0	58.3
		術後在院日数	27.4	10.8	7.8	52.1	12.0	13.5	18.1	27.4	33.2	42.3	45.9
	術前在院日数	7.6	5.7	1.7	27.8	2.0	2.5	3.5	5.5	10.4	16.8	17.7	



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(7件以上)の施設を解析対象とした。

ICD-10:C53

術前在院日数

術後在院日数

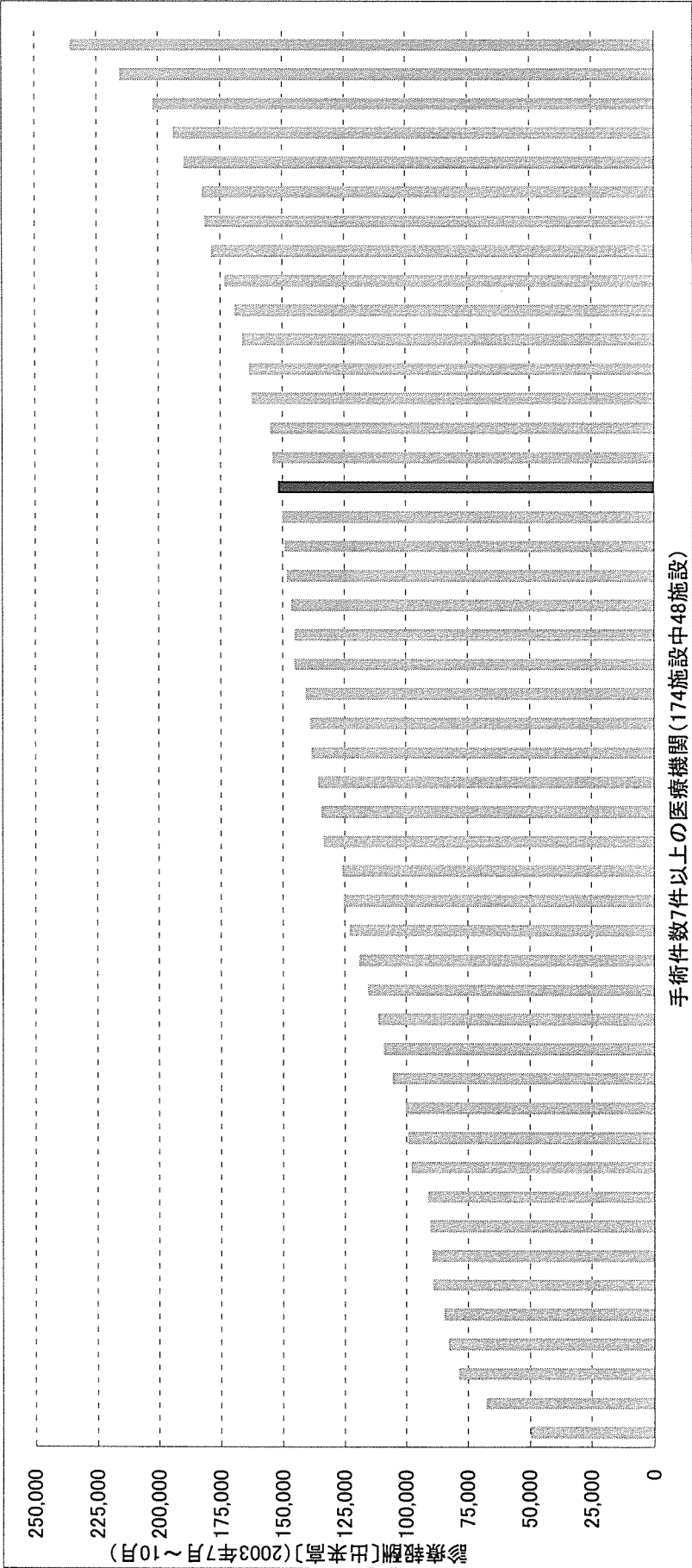
【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数7件以上の47施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は5.5日で最小値1.7日、最大値27.8日と施設間で大きな差がみられた。また、術後在院日数は最小値9.7日、最大値69.8日であった。全体的に卵巣癌の手術症例よりも、平均値で約19日短かった。

子宮頸部の悪性腫瘍手術症例における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値 (N = 797)

解析対象DPC番号の範囲 1200203x01/ 1200203x02/ 1200203x03

解析対象DPC番号の範囲		1200203x01/ 1200203x02/ 1200203x03		パーセンタイル									
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
子宮頸部の悪性腫瘍	診療報酬〔出来高〕	136,163	40,212	49,724	235,434	80,252	87,828	104,306	138,674	162,586	184,569	199,220	
	特定機能病院(47施設)〔出来高換算総点数〕	135,830	40,580	49,724	235,434	80,066	87,368	102,975	138,416	162,885	185,295	199,628	
	その他の参加病院(1施設)〔出来高制度の総点数〕	151,801	—	151,801	151,801	151,801	151,801	151,801	151,801	151,801	151,801	151,801	



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25% (7件以上) の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

ICD-10: C53

特定機能病院

その他の参加病院

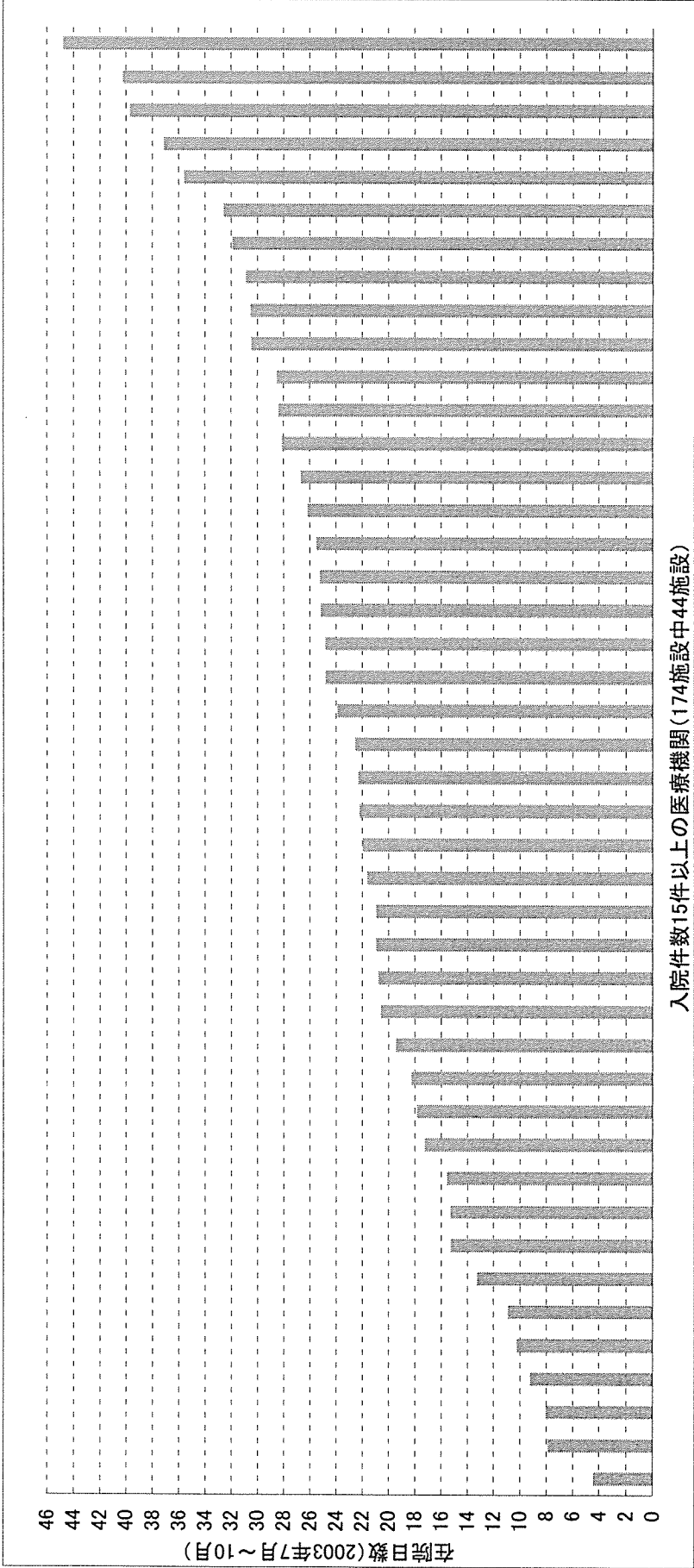
【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数7件以上の48施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬〔出来高〕は約13万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりもおよそ2万点高額であった。

子宮頸部の悪性腫瘍手術未症例における平均在院日数(N = 1,594)

解析対象DPC番号の範囲 1200203x99

分類名	解析内容	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮頸部の悪性腫瘍	在院日数	23.1	9.1	4.4	44.7	8.2	10.4	17.7	22.4	28.4	34.7	39.3



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、15件以上の施設を解析対象とした。

ICD-10:C53

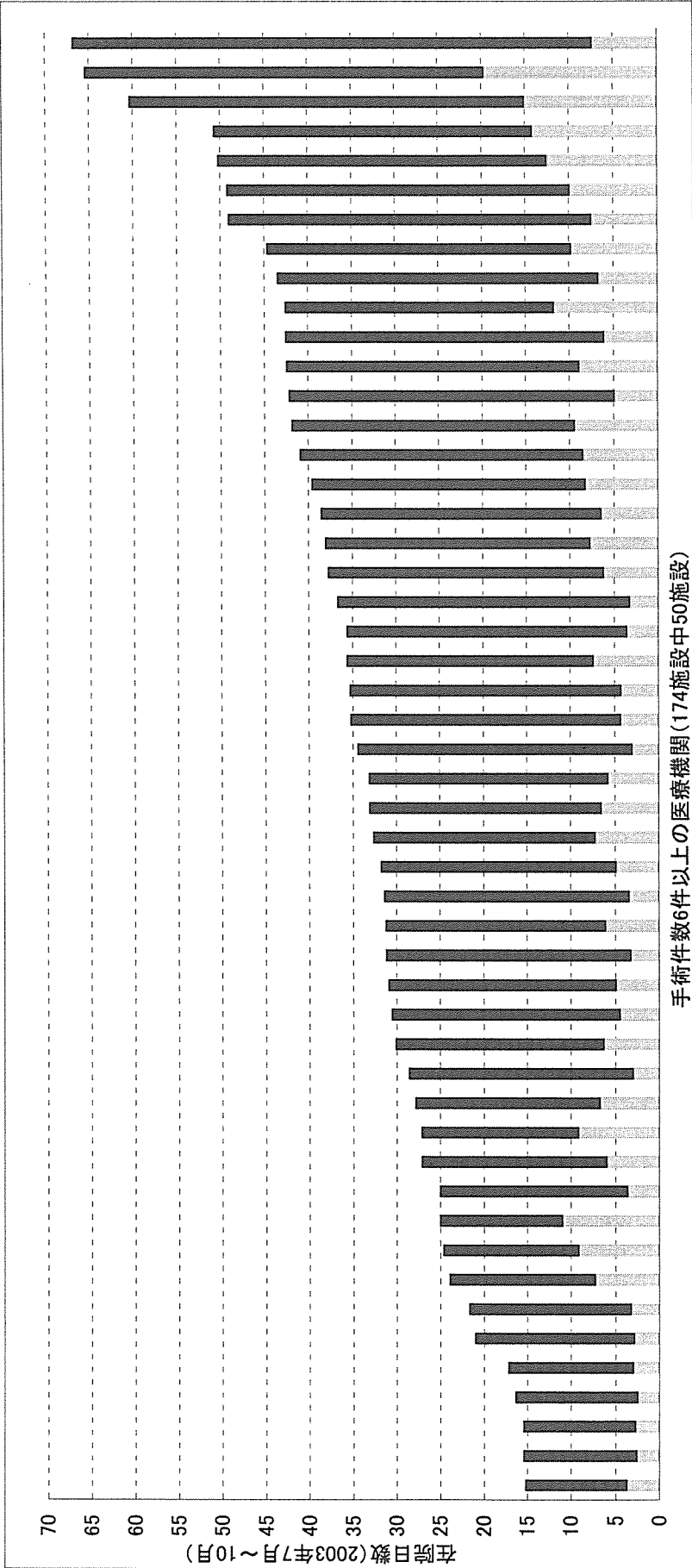
■ : 在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、入院件数15件以上の44施設を解析対象とした。子宮頸部癌においては、在院日数は平均値23.1日、最小値4.4日、最大値44.7日で分布していた。卵巣癌と比較すると、平均値で12日長く、手術症例とは反対の傾向を示していた。

子宮体部の悪性腫瘍手術症例における平均在院日数(N = 705)

解析対象DPC番号の範囲		1200203x01/ 1200203x02/ 1200203x03										パーセンタイル				
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95				
子宮体部の悪性腫瘍	在院日数	35.0	11.9	15.3	66.9	15.9	20.7	27.4	33.8	42.2	49.4	56.1				
	術後在院日数	28.4	9.7	11.6	59.6	13.5	14.3	21.4	28.3	33.3	38.0	43.8				
	術前在院日数	6.6	3.6	2.4	19.7	2.7	2.9	3.6	6.1	8.4	11.0	13.4				



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(6件以上)の施設を解析対象とした。

ICD-10: C54

術前在院日数

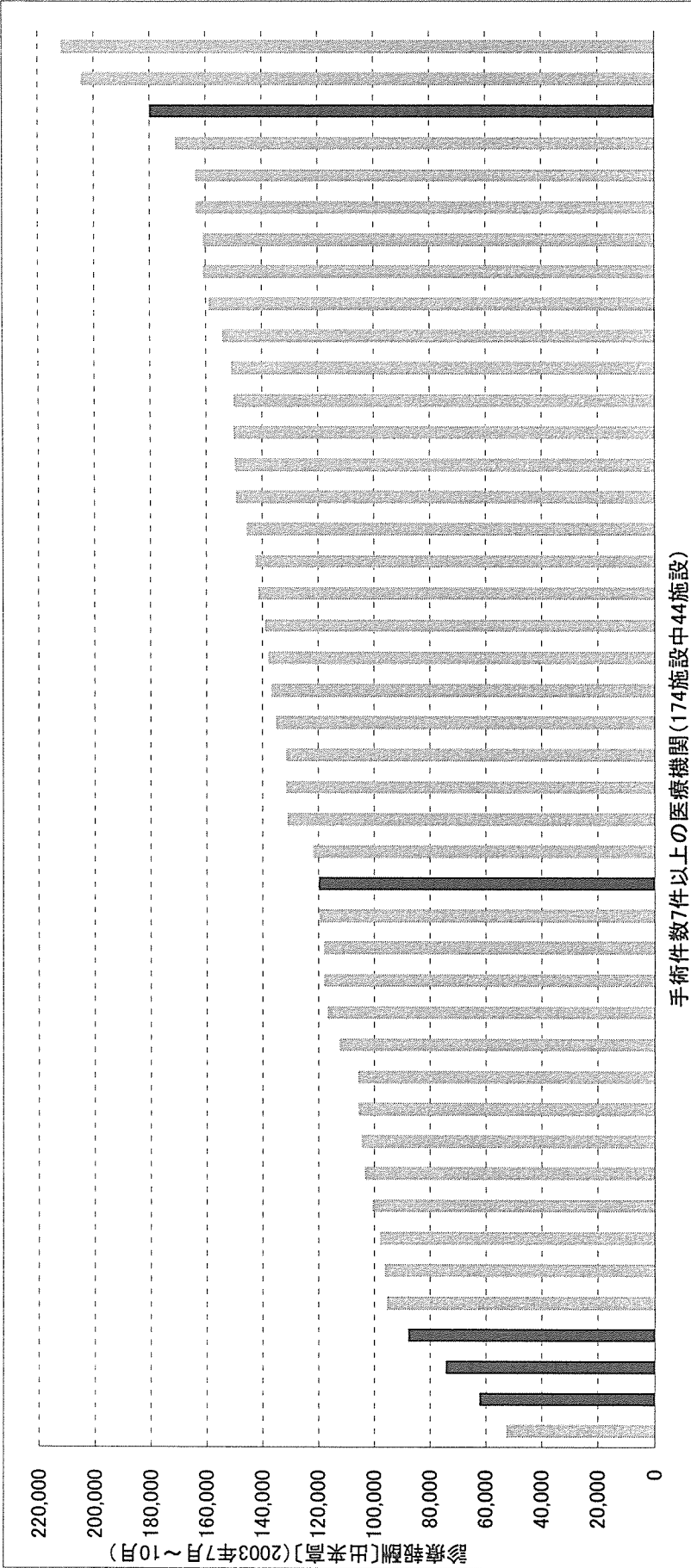
術後在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数6件以上の50施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は6.1日で最小値2.4日、最大値19.7日と施設間で大きな差がみられたものの、卵巣癌や子宮頸部癌と比較して最も在院日数が短かった。また、術後在院日数は平均値28.4日、最小値11.6日、最大値59.8日で子宮頸部癌よりもわずかに長いものの卵巣癌よりも短い傾向にあった。

子宮体部の悪性腫瘍手術症例における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値(N = 2,432)

解析対象DPC番号の範囲			1200203x01/ 1200203x02/ 1200203x03											
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル								
子宮体部の悪性腫瘍	診療報酬〔出来高〕	130,952	33,353	52,538	211,400	5	10	25	50	75	90	95		
	特定機能病院(39施設)〔出来高換算総点数〕	134,298	30,390	52,538	211,400	76,342	95,647	105,591	133,324	150,318	163,446	178,611		
	その他の参加病院(5施設)〔出来高制度の総点数〕	104,850	47,158	62,378	180,002	96,057	100,165	114,543	136,818	150,485	163,420	174,083		
						64,765	67,153	74,317	87,817	119,736	155,895	167,949		



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(7件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

ICD-10:C54

■:特定機能病院

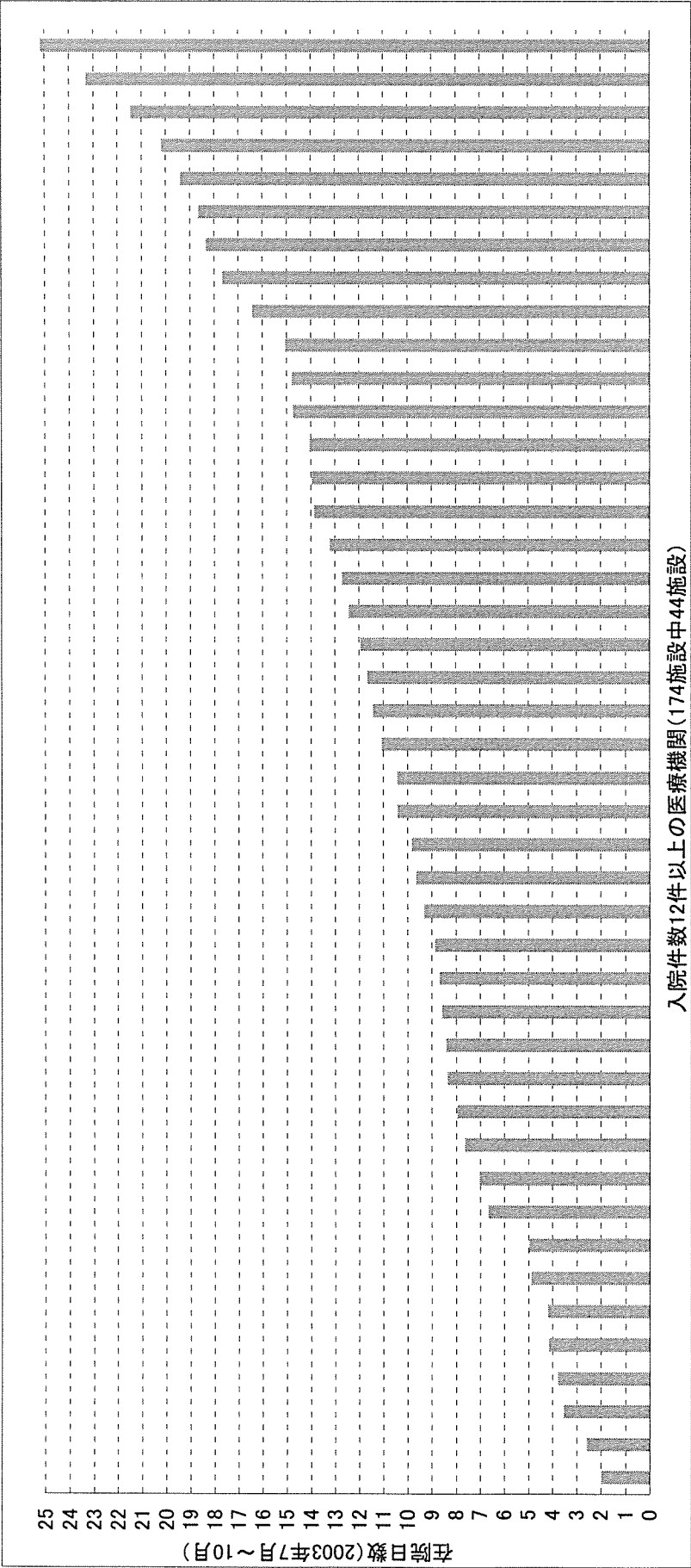
■:その他の参加病院

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数7件以上の44施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬〔出来高〕は約13万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりもおよそ3万点高額であった。

子宮体部の悪性腫瘍手術未症例における平均在院日数(N = 803)

解析対象DPC番号の範囲 1200203x99						パーセンタイル						
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮体部の悪性腫瘍	在院日数	11.5	5.8	2.0	26.4	3.6	4.2	7.9	10.8	14.7	19.2	21.2



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、12件以上の施設を解析対象とした。

ICD-10: C54

■: 在院日数

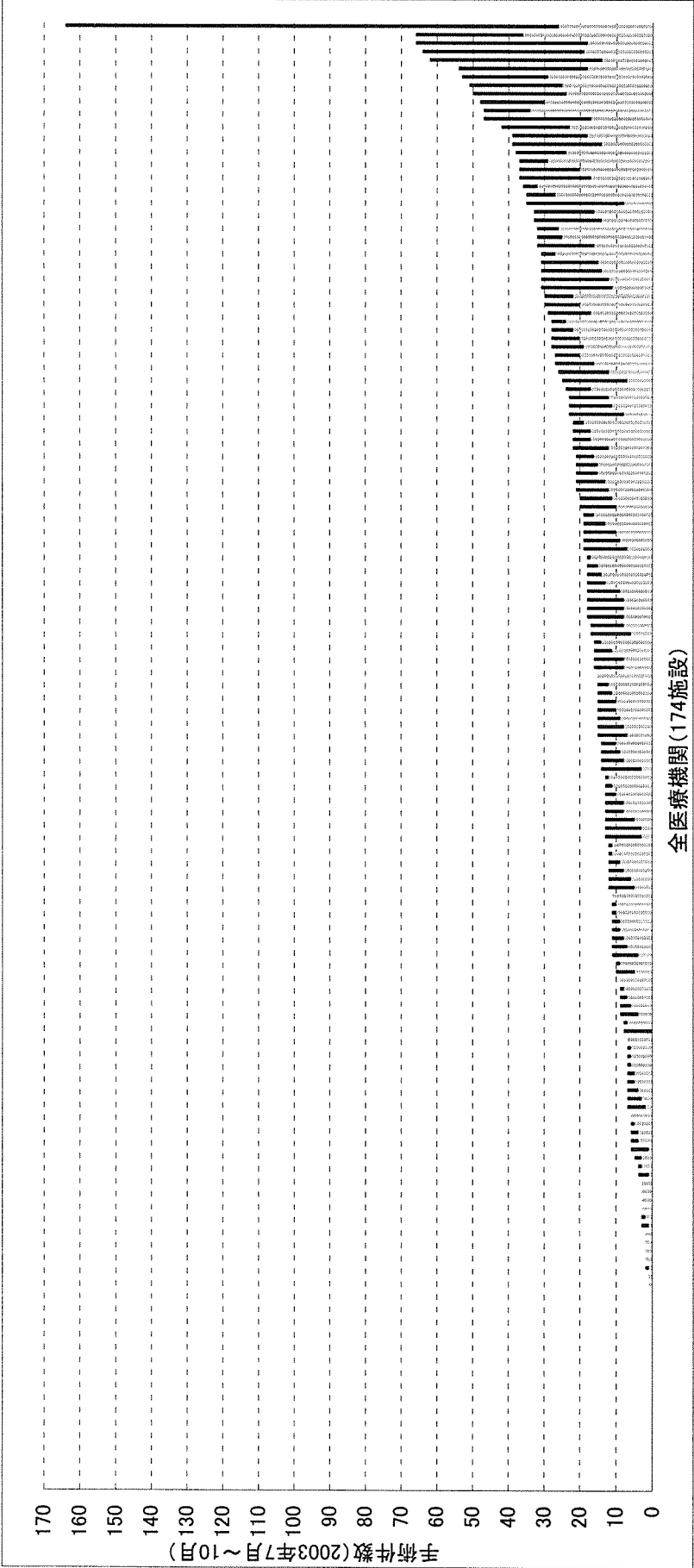
【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる入院日数12件以上の44施設を解析対象とした。子宮体部癌においては、在院日数は平均値11.5日、最小値2.0日、最大値26.4日で分布していた。

子宮の良性腫瘍の術式別手術施行件数

解析対象DPC番号の範囲 1200603x01/ 1200603x02/ 1200603x03

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル							
							5	10	25	50	75	90	95	
子宮の良性腫瘍	子宮筋腫核出術等施行件数	1,364	8	13	0	138	0	0	1	5	10	19	26	
	子宮全摘出術等施行件数	1,726	10	8	0	36	0	0	3	9	15	21	26	



【図の説明】



子宮全摘術等[DPC手術コード:01, 02およびKコード:K876, K877, K877-2]
子宮筋腫核出術等[DPC手術コード:01, 02, 03およびKコード:K8721, K8722, K872-2, K873]

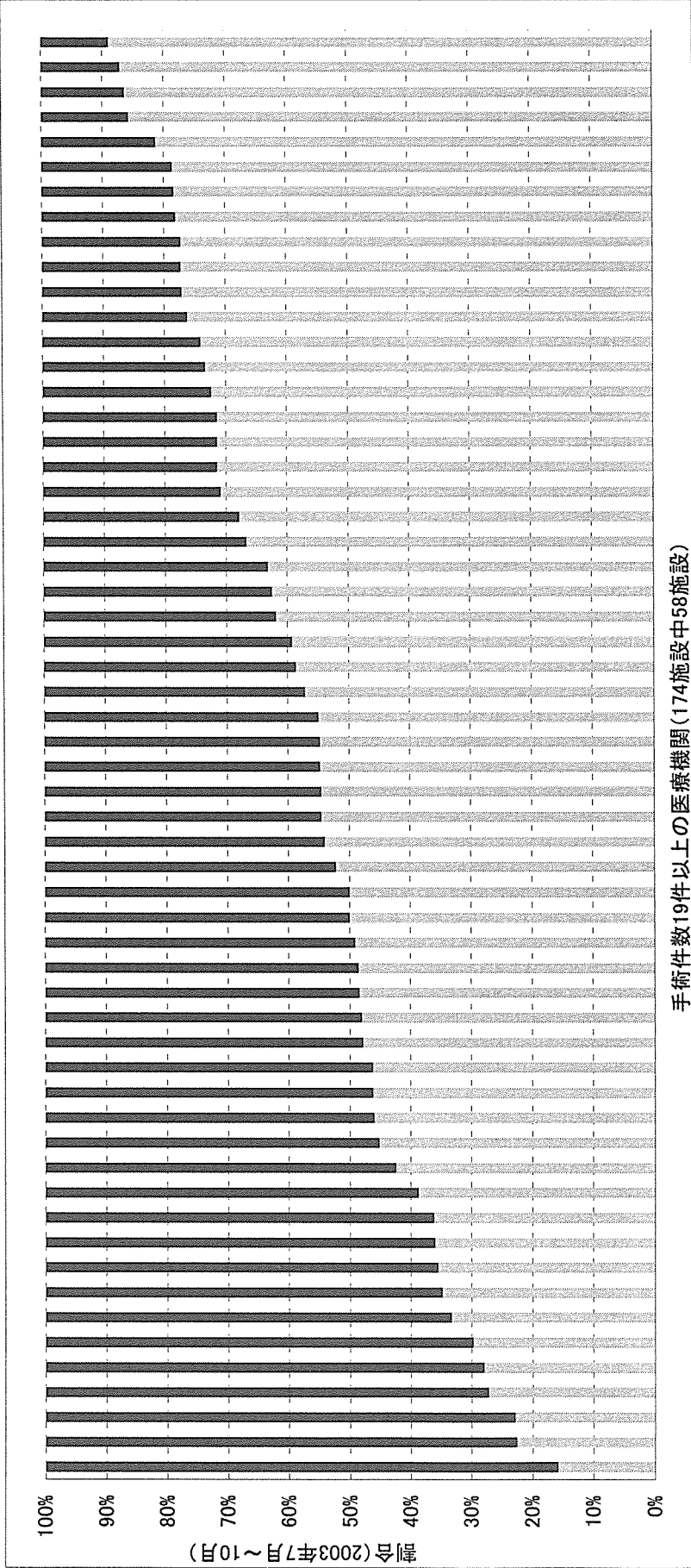
【コメント】

全体の86%の150施設において、子宮良性腫瘍に対する手術症例が1例以上あった。全体的には 4か月間で1施設あたりおよそ18例の手術症例があり、筋腫核出術よりも子宮全摘術施行症例がやや多くなっていた。

子宮の良性腫瘍の術式別手術施行割合 (N = 2,096)

解析対象DPC番号の範囲 1200603x01/ 1200603x02/ 1200603x03

解析対象DPC番号の範囲 1200603x01/ 1200603x02/ 1200603x03												
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
						5	10	25	50	75	90	95
子宮の良性腫瘍	子宮筋腫核出術等施行件数	43%	19%	11%	84%	14%	22%	28%	45%	54%	68%	73%
	子宮全摘出術等施行件数	57%	19%	16%	89%	27%	32%	46%	55%	72%	78%	86%



【図の説明】

件数上位25%(19件以上)の施設を解析対象とした。

：子宮全摘術等[DPC手術コード:01, 02およびKコード:K876, K877, K877-2]

：子宮筋腫核出術等[DPC手術コード:01, 02, 03およびKコード:K8721, K8722, K872-2, K873]

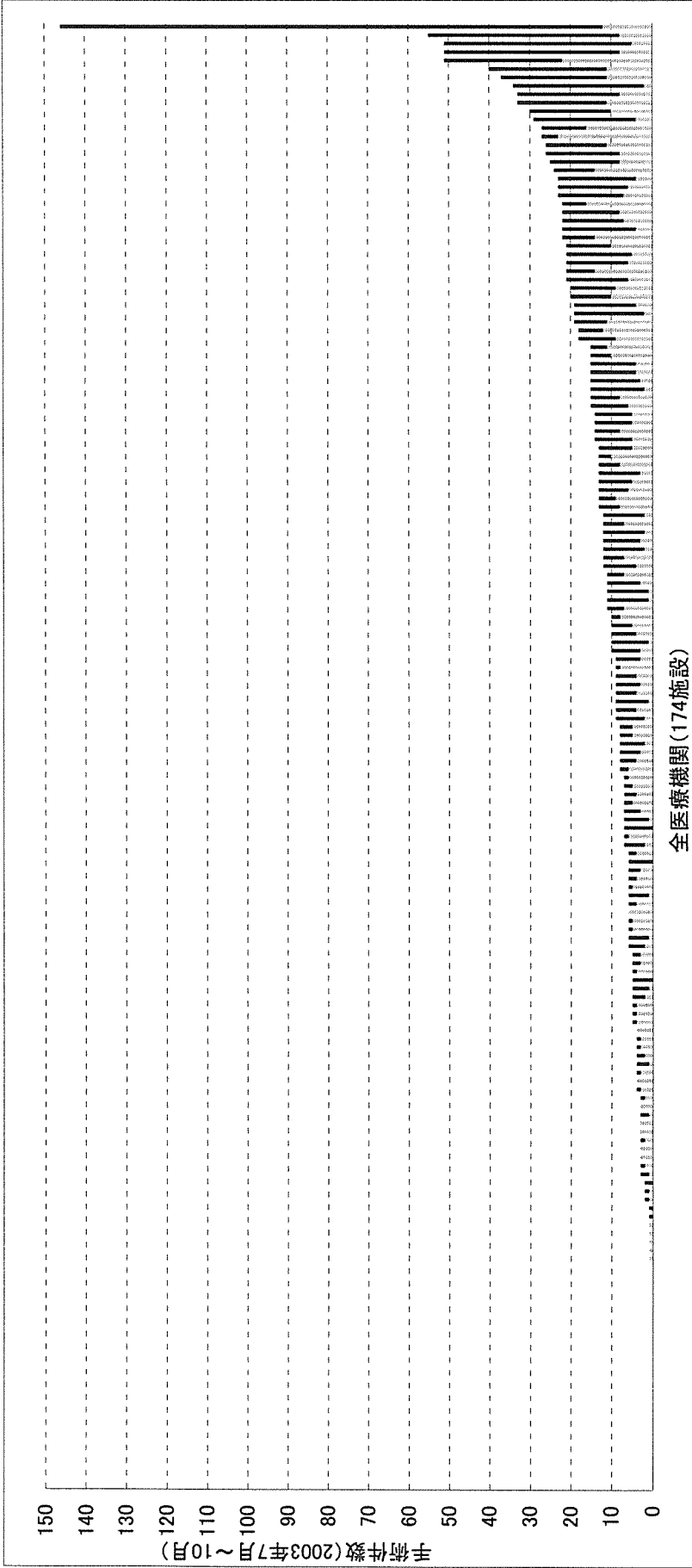
【コメント】

手術件数19件以上(上位25%に該当)の58施設を解析対象とした。全体の平均では子宮全摘術が約3分の2を占めていたが、その割合は施設間で大きくばらついており、10%台から90%までの幅があった。

45歳以下の子宮良性腫瘍症例の術式別手術施行件数

解析対象DPC番号の範囲 1200603x01/ 1200603x02/ 1200603x03

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル							
							5	10	25	50	75	90	95	
子宮の良性腫瘍	子宮筋腫核出術等施行件数	1,254	7	13	0	134	0	0	1	4	9	17	25	
	子宮全摘出術等施行件数	752	4	4	0	23	0	0	1	4	6	10	11	



【図の説明】

45歳以下を対象とした。

：子宮全摘術等[DPC手術コード:01, 02およびKコード:K876, K877, K877-2]

：子宮筋腫核出術等[DPC手術コード:01, 02, 03およびKコード:K8721, K8722, K872-2, K873]

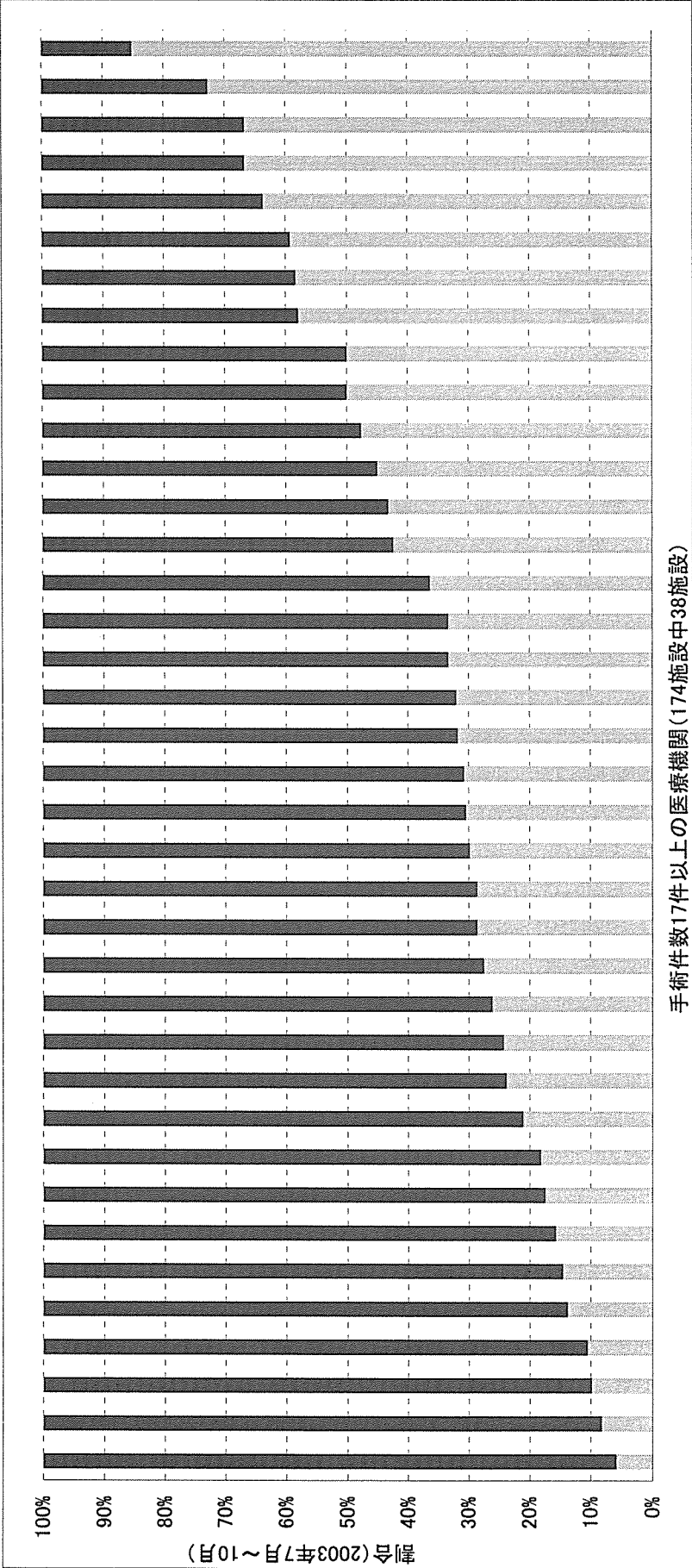
【コメント】

全体の86%の施設において1例以上の45歳以下の子宮良性腫瘍手術症例があった。4か月間で1施設あたり約11例の手術症例があった。全年齢における解析とは異なり、45歳以下では筋腫核出術施行症例が全体の63%を占めていた。

45歳以下の子宮良性腫瘍症例の術式別手術施行割合 (N = 1,162)

解析対象DPC番号の範囲 1200603x01/ 1200603x02/ 1200603x03

解析対象DPC番号の範囲						1200603x01/ 1200603x02/ 1200603x03							パーセンタイル				
分類名	解析内容		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95				
子宮の良性腫瘍	子宮筋腫核出術等施行件数		64%	20%	15%	94%	32%	35%	51%	69%	78%	87%	90%				
	子宮全摘出術等施行件数		36%	20%	6%	85%	10%	13%	22%	31%	49%	65%	68%				



【図の説明】

45歳以下を対象とし、件数上位25%(17件以上)の施設を解析対象とした。

：子宮筋腫核出術等[DPC手術コード:01, 02およびKコード:K876, K877, K877-2]

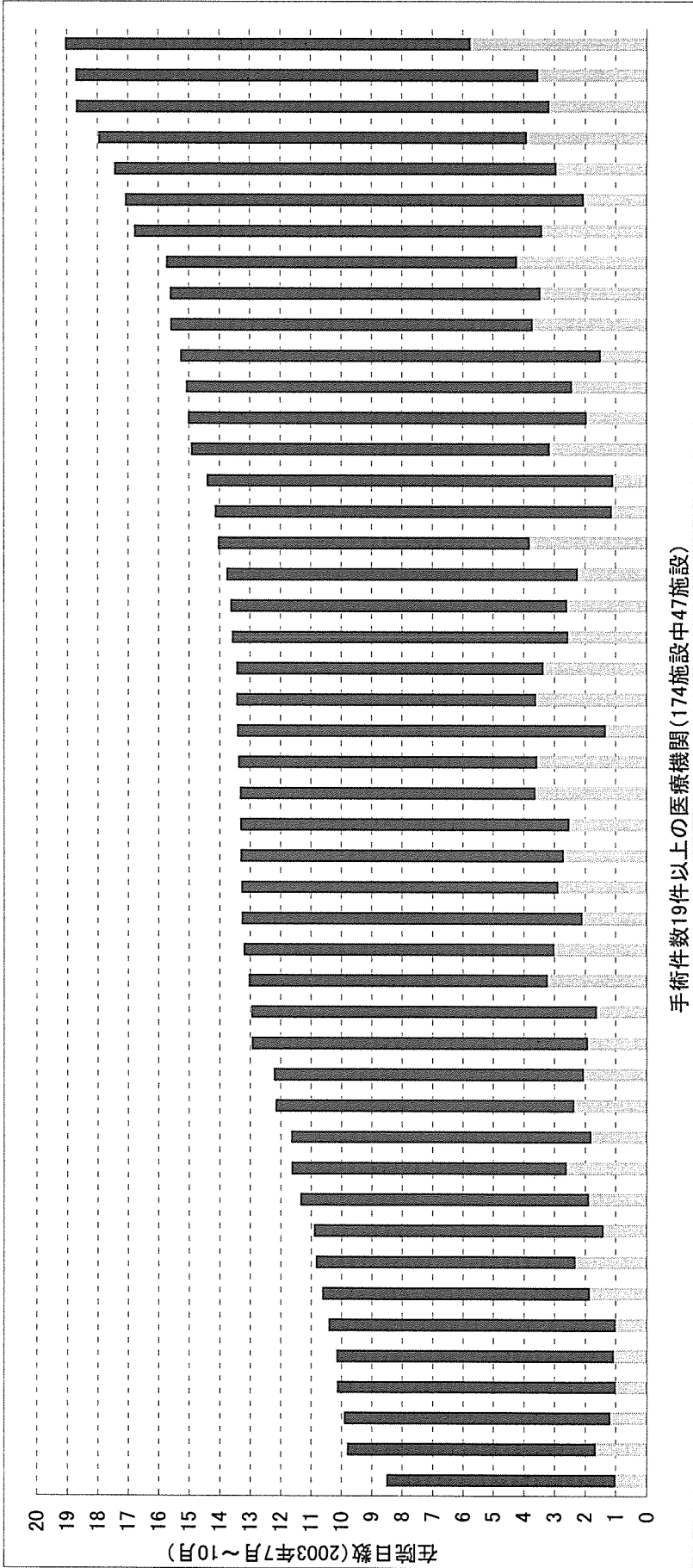
：子宮筋腫核出術等[DPC手術コード:01, 02, 03およびKコード:K8721, K8722, K872-2, K873]

【コメント】

手術件数17件以上(上位25%に該当)の38施設を解析対象とした。全年齢における解析結果とは異なり、全体の平均としては子宮筋腫核出術が3分の2を占めていた。しかしその割合は施設間で大きくばらついており、約15%の施設から90%を超える施設まで分布していた。

子宮の良性腫瘍手術症例における平均在院日数(N = 1,270)

解析対象DPC番号の範囲		1200603x01												パーセンタイル											
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95													
子宮の良性腫瘍	在院日数	14.0	2.4	9.5	19.2	10.2	11.0	12.3	13.7	15.4	17.4	19													
	術後在院日数	11.5	2.0	8.5	15.5	8.7	9.2	9.9	11.2	12.8	14.4	15.2													
	術前在院日数	2.5	1.1	1.0	5.8	1.0	1.0	1.7	2.5	3.4	3.7	4.0													



【図の説明】

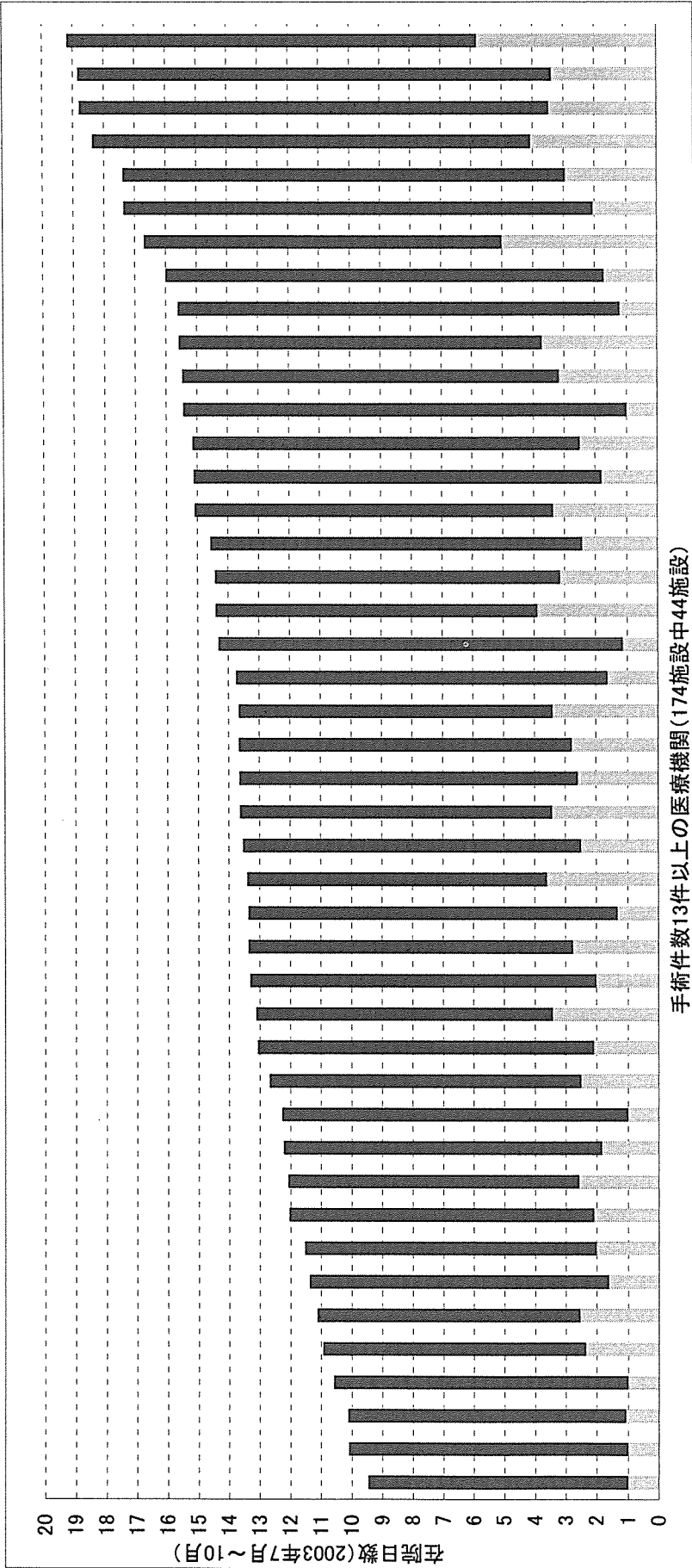
外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(19件以上)の施設を解析対象とした。
解析対象データには、DPC手術コード:01における子宮全摘出術[Kコード:K876, K877]および子宮筋腫核出術[Kコード:K8721, K8722]が含まれる。
:術前在院日数
:術後在院日数

【コメント】

外れ値両側5%を除外し、手術件数19件以上(件数上位25%)の47施設を解析対象とした。術前在院日数は1～6日に分布していて施設間のバラツキは小さく、術後在院日数も約1～2週間までの分布であった。

子宮の良性腫瘍・子宮全摘術施行症例における平均在院日数(N = 826)

解析対象DPC番号の範囲		1200603x01		パーセンタイル								
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
子宮の良性腫瘍	在院日数	14.0	2.4	9.5	19.2	10.2	11.0	12.3	13.7	15.4	17.5	18.7
	術後在院日数	11.5	2.0	8.5	15.5	8.7	9.2	9.9	11.2	12.8	14.4	15.2
	術前在院日数	2.5	1.1	1.0	5.8	1.0	1.0	1.7	2.5	3.4	3.7	4.0



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(13件以上)の施設を解析対象とした。

解析対象データには、DPC手術コード:01における子宮全摘出術[Kコード:K876, K877]が含まれる。

術前在院日数

術後在院日数

【コメント】

外れ値両側5%を除外し、手術件数13件以上(件数上位25%)の44施設を解析対象とした。術前在院日数は1~6日に分布していて施設間のバラツキは小さく、術後在院日数も約1~2週間の分布であった。